

認知症や障がいがあっても、 その人らしく生きることを支えるために

-意思決定がむずかしい時にどんな支援が必要ですか-
支援付き意思決定・意思決定支援のあり方を考える

Expressed wish vs Best interest (表出された希望 VS 最善の利益)

今、「意思決定支援」が注目されています。高齢者、認知症の方、障がいをお持ちの方など、ご自分の意思を表現することが難しい方であっても、意思や希望は必ず持っています。

私たちは、ご本人のためを思って(=これが“Best interest(最善の利益)”と考えて)一方的な支援をしてしまっていないでしょうか？

南オーストラリア州で意思決定支援のモデルを開発し、世界中に実践者を育成しているシェア・ニコルソン氏をお迎えして、ご本人の本当の思いや希望を知ることの大切さと、意思を引き出すための会話のスキルについて学びます。

あなたも、大切な方のために、意思決定支援のあり方について考えてみませんか。

主催：NPO法人
中空知成年後見センター
後援：一般社団法人
日本意思決定支援ネットワーク
(SDM-Japan)

日時

平成30年6月28日(木)

第1部 9:30～12:30

第2部 14:00～17:00

第3部 18:30～20:30

会場

砂川市地域交流センター
ゆう ミニホール

北海道砂川市東3条北2丁目3-3

参加費

第1・2部 2,000円

第3部 1,000円

(当日、受付でお支払いください)

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

ワークショップ

第1部 9:30～12:30

対象： 一般の方、ご家族

第2部 14:00～17:00

対象： 専門職の方
(定員各30名)

◆南オーストラリア州の
支援付き意思決定モデル
◆本人の意思を引き出す
会話のスキルを学ぶ

講師：シェア・ニコルソン氏



南オーストラリア州での意思決定支援の様子や社会的インパクト、日本への導入の経緯などをお話しいただくとともに、Expressed wish (表出された希望)と Best interest (最善の利益)の違いや、意思を引き出す会話のための基本スキルについてシェア氏から学ぶことができる体験型のプログラムです。

シンポジウム

第3部 18:30～20:30

**意思決定支援についての
実践報告と意見交換**

パネリスト:

SDM-Japanメンバー

松本佳代 熊本大学大学院地域看護学分野
-認知症高齢者の意思決定支援

本間奈美 相談支援センターそらうみ
-意思決定支援ガイドラインを考える

熊谷仁美 中空知成年後見センター
-後見活動での意思決定を考える

北海道や新潟での事例などから、高齢者や認知症、障がいを持つ人の意思決定支援について、医療・成年後見やケアマネジメントのあり方も含め、それぞれの立場から私たちにできることを考えていきましょう。

会場地図 TEL0125-54-3111



【申し込み方法】

メール、FAX、電話のいずれかで①お名前、②参加希望の部(第1部・第2部・第3部)、③メールアドレス(お持ちでない方は電話番号)をお送りください。

<送付先> メールアドレス kayomatu@kumamoto-u.ac.jp (担当:松本)

FAX 0125-74-5662 電話0125-74-5661 (担当:熊谷)